

市民ネットワーク 市議会報告

連絡先：さくら・市民ネットワーク
電話：043-462-0618
FAX：043-489-0797
メール：news@sakura-siminnet.com

2024年
10月30日発行



五十嵐ともみ 伊藤とし子 松島こずえ

8月市議会 (8/26 ~ 9/25)

佐倉市の防災対策について

復興半ばの能登半島地震を教訓に、佐倉市も平時からさまざまな備えをすべきと、議会質問で求めました。

● 学校体育館に空調設備を

災害時に避難所となる学校体育館には、空調設備が必要です。千葉県内でも、近年の危険な猛暑に対応するため、学校体育館に冷房を設置する自治体が増えています。空調設備を導入するには、併せて断熱性向上のための工事が必要です。佐倉市は改修工事の際に検討するとし、具体的な計画はありません。

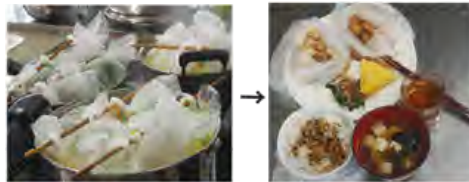
● 住民主体の避難所運営

災害発生時に、交通の遮断や市職員の被災により、避難所の開設・運営が困難となることが想定されます。地域住民が主体となって運営する避難所運営委員会が必要です。千代田小学校をモデルケースとして、他の地域でも設置を目指すはずでしたが、全く進んでいません。

● 地域の防災リーダー養成を

地域の防災リーダーを目指す、災害対策コーディネーター

の養成講座を佐倉市でも実施してほしいと、市民の方から要望がありました。県に申請すれば補助金制度があり、受講者は県の認定を受けることができます。



↑災害時に、ポリ袋で簡単にできる湯せん調理。一度、試してみませんか。

→ 防災井戸：避難所等43カ所に設置。飲用に適さない井戸には飲料水を備蓄（150人×3日分）⇒災害時協力井戸の創設を要望しています。



マンホールトイレの仕組み
↑マンホールトイレ：避難所33カ所に設置。下水道管にあるマンホール上に設置。

STOP! **新型コロナワクチン**
打つのはちょっと待って!

2021年4月から始まり4億回以上接種された新型コロナワクチン。緊急事態という理由で、国内での治験を省略した特例承認だったため、接種開始直後から突然死、心不全、心筋梗塞、間質性肺炎、くも膜下出血など様々な副反応が報告されています。

コロナワクチン接種後の死亡認定数は3年間で835件。その他のワクチンの死亡数は過去47年間で158件。実に5倍です。mRNA（遺伝子組換え）ワクチンを一度体に入れると、いつまで、どれだけ、副反応が続くかは不明です。治療方法も確立されていません。接種直後に倒れて、3年間寝たきりの被害者がいますが、被害認定はされていません。

10月から新たにレプリコンワクチンが始まりました。これまでのmRNAワクチンと違い、体内でウイルスを増殖させる危険性が指摘されています。接種するかどうかは慎重に判断すべきです。

8月市議会の採択結果

市民ネットワーク提出 意見書	結果	市民ネット	さくら会	公明	自民 さくら	共産	無会派 の会	公開と 改革	
米兵による少女誘拐・性的暴行事件等に対する意見書	×	○	×	×	×	○	三井 宇田	○	○
旧来の風邪を「5類感染症」に格上げする省令改正を抜本的に見直すことを求める意見書	×	○	×	×	×	○	○	○	○
こどもの貧困解消法の実効的施行を求める意見書	×	○	×	×	×	○	三井 宇田	○	×
(敬称略)		松島 伊藤 五十嵐	平野、櫻井 爲田、高木 村田、望月 斎藤(明)、密本	岡村 押木 鍋田 長谷川	徳永 山本 石井 藤橋岡	木崎 石井 (昇)	三井 宇田	稲田 高橋	三谷

ふるさと納税で 市民サービスにしわ寄せ

ふるさと納税制度の当初の目的は、応援したい自治体に寄付をするものでしたが、現在は、返礼品を目的とした寄付が増加しています。その結果、多くの自治体では税収の減少に苦しんでいます。佐倉市の場合も、昨年度は、5億円が他自治体へ流出し、一方で、佐倉市への寄付はわずか6千万円余でした。

税金は本来、自分の自治体の行政サービスに使われるものです。これだけあれば、給食の完全無償化(6億8千万円)も夢ではなく、酷暑対策として教室の断熱化改修(1教室150万円)も可能です。ふるさと納税制度は見直されるべきです。



ごみ出しが大変! 支援制度を

現在、市の高齢化率は約34%、一人暮らし高齢者も年々増えています。市民ネットに「一人暮らしでごみを出すのが大変」という声が寄せられました。

全国的にごみ出し支援制度として、高齢者世帯や障がい者世帯などで、集積所までごみを出すことが難しい場合、個別に訪問して収集、併せて声かけによる見守りなどが行われています。県内では流山市、市川市、船橋市、柏市、松戸市などが実施しています。



在宅で生活ができるような支援として、環境部と福祉部の連携による「ふれあい訪問収集制度(ごみ出し支援制度)」の創設を、8月議会で提案しました。

公立佐倉幼稚園~110年の歴史が終わる

現在通園している園児が卒園する2026年3月末で閉園する議案が可決されました。来年度の園児募集は行わないこととなります。

1年前に、園児減少を理由に突然閉園すると教育委員会が決め、保護者から存続を求める声があがりました。市民ネットも十分な議論が尽くされていないと反対しました。1年を目途に検討するとされましたが、非公開の庁内メンバーによるあり方検討会議は、再度閉園するとの答申を出し、市長も了承。最後まで保護者の声は置き去りのままでした。

このような市のやり方では、市民の信頼は得られません。開かれた市政運営を求めていきます。

ここが問題!

2023年度決算

昨年度決算の実質単年度収支は、11億3700万円の赤字でした。しかし、補助金頼みの大型公共事業費は、見直すこともされず、どんどん膨らみ続けています。

相変わらず大型公共事業が目白押し

ふるさと広場拡張整備事業は、総額13億4600万円のところ、新たに県と合同で水辺デッキ設置事業が浮上。1000㎡規模で、事業費7700万円の算定根拠もあいまいです。設計は決まっておらず、事業費がどれだけ膨らむかは不明。

市道飯野Ⅱ-31号線は、ふるさと広場から草ぶえの丘に通じる、山林を切り崩す新設大型道路に総額10億円。



※(写真引用先 国土地理院空中写真) 主要地方道(県道)佐倉印西線

市道Ⅰ-23号線岩富・寺崎線道路改良工事は2.2kmに総額40億円。起点・終点の土地買収の見通しも立っていません。

(仮称) **佐倉西部自然公園**は「重点整備地区以外の土地も購入せざるを得ない」との説明もあり、土地買収にどれだけかかるかは不明です。

城下町周辺地区整備のための国の補助事業は、佐倉図書館を含む**新町活性化複合施設(夢咲くら館)**、**城址公園拡張整備**、**武家屋敷通り整備**、**新町下り一通道路整備**などで、最終的に総事業費28億8千万円となりました。図書館単体の建設では国の補助金が付かないため、「賑わい創出による地域経済活性化」を目的として、あれこれ事業を組み合わせた苦肉の策です。市の負担額は19億円となりました。

夢咲くら館は23年3月に開館。開館前から駐車場出入口の見通しが悪いことを指摘してきましたが、事故が1件発生。早急な安全対策が必要です。また、駐車場維持に年間800万円もかかります。以前のように無料に戻すべきです。

ワンストップ相談窓口の設置を

物価高騰で市民生活は大変です。昨年度、水道料金の滞納で944世帯がライフラインである水道を止められました。しかし、現在、上下水道料金の再度の値上げが検討されています。市税・国保税を両方滞納していたのは2694世帯でした。困窮世帯と福祉をつなぐワンストップ相談窓口の設置が必要です。